

第3次子ども読書活動推進計画 令和6年度評価コメント【まとめ】

●評価できる事業、取組

施策No.	コメント
P.8～	アンケート結果報告 コメントが入ることによって、成果と課題が明確になっていきます。P9でさえ、居住地が図書館に近いことがわかります。身近に「本に関わる場所」が必要だという証左ではないでしょうか。このアンケートの分析を丁寧に行うことで、新しい施策が生まれるのでないでしょうか。
10	ディスプレイの工夫、図書委員会のおすすめ本紹介など子どもが本を取りやすい環境づくりが進んできています。
12	先生や友人などの身近な人から本を紹介されるのはとても効果があると思う。不読率を改善するためにも学校が積極的に取り組んでいて素晴らしい。
16	茅ヶ崎市は他の市と比較してイベントを積極的に行っていると感じる。図書館が地域社会のコミュニケーションの拠点となっている点からも意義深い事である。
19	学校司書研修やお勧めの本の紹介など、学校司書、読書指導協力者のスキルアップは必須です。継続・充実を望みます。
21-1	読書活動推進においてボランティアの方々のご貢献は本当に有難いことなので、今後もボランティアの方にスポットを当てて感謝の意を示す取り組みはぜひ続けていってほしい。
22-2	大人の感覚で考えたことを大人だけで決めがちなので、子どもたちの意見を直接聞くことが出来るのは大事。
23-3	借りるだけではなく、読み終えた本や読んでほしい本を寄付できることで、本を通して交流の場になっているのは素晴らしい。
24-1	本の楽しさだけではなく、昔遊びを取り入れたことで、参加者同士の交流の場になったことが素晴らしい。学校、図書館ではない場所での「こわーい話会」はあまり本を読まない子どもも参加しやすかったと思う。

●改善を要する事業、取組

事業No.	コメント
8	学校司書は職員会議などにも参加しないので、学習の内容について情報共有する機会が少ない。主要教科だけでもいいので、図書室に各学年の教科書を常備するようにしてはどうだろうか。司書がそれを参考に特集コーナーを作ったり、教科書のレベルに合わせた選書ができるようになるのではないだろうか。
9	学校司書の勤務時間が短く、児童・生徒の在校時に必ずいるわけではありません。勤務時間の延長を望みます。
11・12	小学校及び中学校学習指導要領においては、「言語能力の育成を図るために、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要としつつ各教科等の特質に応じて、言語活動を充実することや、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童生徒の自主的、自発的な読書活動を充実する」ことが規定されています。しかし、11・12のとりくみほど具体的には示されていません。そこまでやる時間がないというのが実際ではないでしょうか。特に小学校中学年以上は難しさを感じます。
12	「読書を楽しめる」ということは、「かけっこが速いこと」や「勉強がとくいなこと」と同じように素晴らしいことであることを知ってもらうために、たくさん本を借りた児童生徒を表彰したらどうだろうか。 ブックトークやストーリーテリングに加えて、中学校ではビブリオバトルに取り組んはどうだろうか。
	特にありませんでした。この前の会議でも話題になりましたが、写真があるとその場、その時の雰囲気が伝わりやすいですね。